

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

園名	東松原保育園
活動日時	令和7年6月23日（月）
クラス名(年齢)	うさぎ組(2歳児)

1. 活動テーマ

<テーマ>

叩いてみよう ～身近なものの音に興味をもつ

<テーマの設定理由>

モノブロックで音のなるおもちゃを自分たちで作りだし、歌をうたいながら楽しんでいました。身近なものの音を使って叩きながら歌をうたう楽しさを味わってほしいと考えた。

2. 活動スケジュール

缶とペットボトルを使い、キャップが付いた棒で叩くことを楽しむ。→叩く場所で音が変わることを楽しむ。→ペットボトルに水を入れて叩くと音が変わる。→歌に合わせて叩いてみる。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

ペットボトル、缶、割りばし、キャップ

4. 探究活動の実践

<活動内容>

缶とペットボトルを棒状のもので叩く。色々な音が出ることを楽しむ。場所によって音が違うことを保育士が見本で見せてみる。どんな音がしたかをきく。ペットボトルに水を入れて音の変化を楽しむ。缶やペットボトルを交換する。かえるのうたや大きなたいこなど簡単な歌に合わせて叩くことを楽しむ。

<活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり>

① 保育士が缶を叩いて音のなるのを見て真似をして叩く。どんな音がするかを聞くと「カンカン」「ポンポン」など言葉で伝えていた。



② ペットボトルの蓋や缶の横を叩くと違う音がすることに気付く。他の子どもも真似をしてやってみようとしていた。



③ ペットボトルに水を入れて保育士が叩いてみると違う音がすること、中の水が揺れていることに気付いた。自分たちもやってみようとして叩いて楽しんだ。



④ 「かえるのうた」や「おおきなたいこ」の歌に合わせて缶やペットボトルを叩くことを楽しんだ。色々な音が出るのがわかった。



5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

音の違いを言葉にできたり、違うということが分かる子どもがいて驚いた。最初は保育士が見本を見せて行なったが、色々な叩き方をどんどん自分たちで考えて違った音が出るのが分かっていった。友だちの姿をみて同じようにたたいてみようとしていたり、ペットボトルと缶を交換したりして楽しむ姿が見られた。普段お互いにあまり興味を持たないが、このような活動を通して友だちに興味が出ていた。簡単な歌に合わせて叩くことを喜んでいたので、色々なものの音に気付いたりしていけるのだと感じた。